

医学教育分野別評価 名古屋市立大学医学部医学科 年次報告書
令和3年度

医学教育分野別評価の受審 2019(令和元)年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.31

本年次報告書における医学教育分野別評価基準 Ver.2.32

1. 使命と学修成果

改善が見込まれる項目

1. 使命と学修成果	1. 3 学修成果
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・学修成果と教育プログラムの進行・到達水準に整合性を持たせるべきである。 ・学修成果に地域医療からの要請、医療制度からの要請を明確に含めるべきである。 ・学修成果を教職員・学生に対してより確実に周知すべきである。 	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時コンピテンシー改訂およびマイルストーン策定に関する教員による WG を設置し、令和3年3月末までに4回 WG を開催した。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・WGにて(素案)がまとまった後、カリキュラム企画・運営委員会の検討を経て、学生代表参加のもと検討し(案)をまとめる。(案)がまとまった段階で教職員、学生に公表し、意見の聴取を行うことを予定している。 	
改善の状況を示す根拠資料	
資料1 卒業時コンピテンシー・マイルストーン WG 名簿	

改善が見込まれる項目

1. 使命と学修成果	1. 3 学修成果
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の行動規範などを整備し、学生同士、教員、医療従事者、患者、およびその家族を尊重し適切な行動をとることを、より確実に習得させるべきである。 	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・プロフェッショナリズム小委員会を設置し、学生の「行動指針(案)」を策定し、カリキュラム企画・運営委員会の承認を得た。 	

- ・アンプロフェッショナルな行動・態度を行った学生の報告制度について、学生および臨床実習担当教員への周知を徹底した。

今後の計画

- ・学生の「行動指針（案）」について、学生の意見を反映させるために学生代表者との検討会を予定している。
- ・アンプロフェッショナルな行動・態度を行った学生の報告制度について、基礎系における活用を予定している。

改善の状況を示す根拠資料

資料2 プロフェッショナリズム小委員会名簿

資料3 行動指針（案）

2. 教育プログラム

改善した項目

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
・行動科学のカリキュラムについて、統一感をもって系統的に構成し、学生が理解しやすいように実践すべきである。	
改善状況	
・行動科学については、行動科学・地域医療学コースを設定しながらも行動科学としてのカリキュラムは無かった。これを改善するにあたり行動科学WGを設置した。検討を行っていく中で現状のカリキュラムの枠組み見直し無しに、改善は困難であるとの判断のもと、当面の改善を行うこととした。行動科学・地域医療学コースに「行動科学」ユニットを新設し、カリキュラムに明示した。	
今後の計画	
・カリキュラム全体を検討していく中で、行動科学の教育を充実していく。	
改善の状況を示す根拠資料	
資料4 2021 医学部教育要項行動科学シラバス	

3. 学生の評価

改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.2 評価と学修との関連
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
・低学年から臨床実習に至る各学年において学修成果を確実に評価していることを示すべきである。	
改善状況	
・卒業時コンピテンシー・マイルストーン WG において、コンピテンシーの改訂およびマイルストーン策定を検討するにあたって、評価についても検討することとした。	
今後の計画	
・卒業時コンピテンシー・マイルストーン WG において、検討を進める。	
改善の状況を示す根拠資料	
なし	

4. 学生

改善した項目

4. 学生	4. 2 学生の受け入れ
質的向上のための水準:適合	
特記すべき良い点(特色)	
・愛知県や名古屋市と協議を行い、地域の要請に応じた入学者の見直しが行われている。	
改善状況	
・中部圏および名古屋都市圏での医師確保の観点から、令和2年度まで行われた推薦B入学試験(定員20名)を、一般入学試験からの10名の定員組替を行い、令和3年度入学試験から学校推薦選抜型(中部圏活躍型(定員27名)、名古屋市高大接続型(定員3名))入学試験に変更した。名古屋市高大接続型は、名古屋市立高校との高大接続であるとともに、名古屋都市圏の医療の発展のために設けた制度である。なお、愛知県の医師偏在対策の要請に応える地域枠推薦入学試験は当初の2名から7名まで増員してきたが、継続して実施している。令和3年度入学試験による入学者は定員通りであった。	
今後の計画	
・今回の変更を継続して進める。	
改善の状況を示す根拠資料	
資料5 令和3年度入学者選抜に関する要項:医学部学校推薦型選抜	

5. 教員

改善した項目

5. 教員	5. 2 教員の活動と能力開発
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
・ 個々の教員がカリキュラム全体を十分に理解するために、FD等の質を充実し、教員の参加度を高めるべきである。	
改善状況	
・ 診療参加型臨床実習を確実に実施するためにFDを開催した。このFDはコロナウイルス感染対策とともに関連病院の臨床実習指導医にも参加できるようZoomにて開催した。	
今後の計画	
・ 令和3年4月に名古屋市東部医療センター・西部医療センターが医学部附属病院となり、両センターの医師が教員となった。FD等を充実し、教育能力の向上に努める。	
改善の状況を示す根拠資料	
資料6 診療参加型臨床実習FDの開催案内について	

6. 教育資源

改善した項目

6. 教育資源	6. 2 臨床実習の資源
基本的水準:部分的適合	
特記すべき良い点(特色)	
・臨床実習の施設拡充のため、東部・西部医療センターを附属病院として活用している。	
改善状況	
・名古屋市立大学医学部と一体化により、優れた医師をさらに増やし、最高水準の医療を継続的に提供するために名古屋市会令和2年11月定例会で、東部医療センター・西部医療センターを令和3年4月1日より名古屋市立大学医学部附属病院とすることが決定された。これにより臨床実習施設としてこれまでより一層一体的な教育が実施できる環境が整った。	
今後の計画	
・臨床実習施設として、より充実した教育が実施できるよう進める。	
改善の状況を示す根拠資料	
資料7 東部医療センター・西部医療センターの市大病院化に関する市会議決(議事録抜粋)	

改善した項目

6. 教育資源	6. 3 情報通信技術
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
・学生の学修を促進するために無線LAN環境をさらに充実すべきである。	
改善状況	
・令和元年度に研究棟ロビー、講義室AおよびBに無線LANを設置した。	
今後の計画	
・無線LANは、全学の総合情報センターICT専門委員会で検討され、順次整備されており、医学部として基礎医学関係実習室、臨床シミュレーションセンターなどの未整備場所の整備を要望していく。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料8 学内無線LAN利用可能エリア(桜山キャンパス)	